

れき じん

となん歴史民だより vol.49

Morioka tonan history and folklore museum

平成 28 年 12 月 13 日 発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228

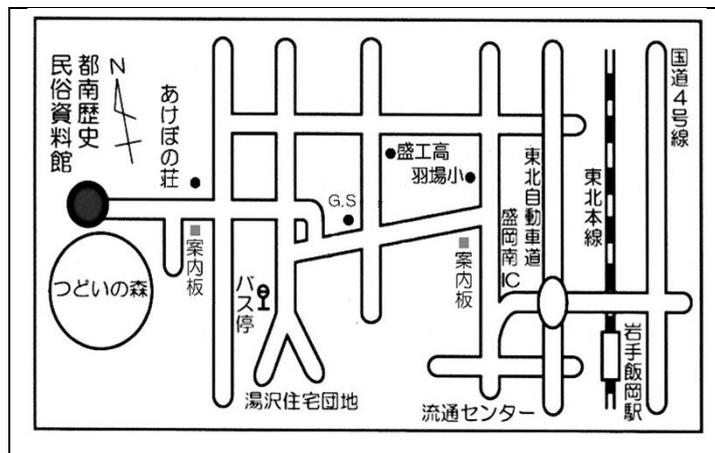


是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 秋の事業報告
- 企画展「都南の先人
宮崎求馬」終了報告
- 次回企画展のご案内
- 資料は語る④
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介④
- となんの昔ばなし④

MAP☆ACCESS



○利用案内

- 開館時間
午前9時から
午後4時まで
- 入館料
無 料
- 休館日
月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)、年末年始

秋の事業報告



①ろまん旅

昨年度に引き続き、都南公民館主催の「都南の歴史ロマン旅」が10月16日(日)に、見前地区公民館の地元学講座「都南の歴史浪漫旅」が10月26日(水)に実施され、当館学芸調査員が案内役を務めました。どちらも、都南地域の史跡や文化財をバスで巡る企画で当日は晴天に恵まれました。見学場所は、朝前山清水寺(西見前)、夏屋敷のキャラボク(盛岡市指定天然記念物、黒川)、大萱生鉾山(大ヶ生)、盛岡市都南歴史民俗資料館など東西に広がる都南地域を横断するコースとなりました。



萬寿坑の現地説明

大萱生鉾山では、現地の方に説明いただき萬寿坑という坑口の内部を見学しました。皆さんが住んでいる地域にも、歴史を知ることができる場所が身近にたくさんありますので、ぜひこのような機会に参加していただければと思います。

②都南歴史民俗資料館移動資料展

平成26年度から開催している「都南歴史民俗資料館移動資料展」を、今年も11月3日(木・祝)～6日(日)の4日間開催しました。この事業は、公共交通機関などの都合上、来館が難しい方や当館を知らない方への周知などを目的に開催しており、今年度は「食」に関わる道具を展示しました。本展には、飯櫃、徳利、製麺機、菓子型など日常の食の道具のほか、年中行事と関わる食の道具も展示しました。開催期間中、都南地域で雛祭りの時期に作られる花まん



花まんじゅうを作るようす

じゅうを作る体験教室や、地元の農家の方に昭和の食事情について聞く「昭和の『食』トーク」も実施しました。また、津志田の里芋を使用した津志田の芋焼酎など、現在も受け継がれている食の文化について紹介しました。今後も、地元の方に協力いただきながら、地域の生活や風習を伝えていきたいと思っています。

③史跡・文化財巡り

当館が事務局を務める「となん・かけはしの会」の事業、史跡・文化財巡りが11月16日(水)に実施され、会員19名が参加しました。今年度は、八幡平市松尾鉦山資料館と雫石町歴史民俗資料館の2か所を見学しました。どちらの資料館も地域の特性を活かした展示となっていたほか、丁寧な解説をいただいたことで参加した会員にとって歴史への理解が深まる機会となりました。「となん・かけはしの会」は常時会員を募集しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

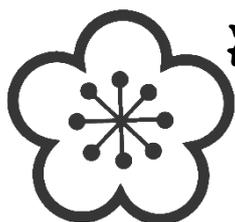


雫石町歴史民俗資料館見学の様子

企画展「都南の先人 宮崎求馬」終了報告

当館では、平成28年10月15日(土)から12月11日(日)まで企画展「都南の先人 宮崎求馬」を開催しました。見前小学校において明治6年(1873)から教職を務め、自らの自宅を校舎として使用していた宮崎求馬と求馬の蔵書を生かして開設した私立図書館宮崎文庫、宮崎家所蔵資料などを紹介しました。現在、当館では、宮崎家に残る近世～近代の資料調査を行っており、本展はその経過報告でした。内容は、教育資料のほか求馬の蔵書、修験関係資料など多岐に及びました。なお、宮崎文庫の蔵書の一部は、岩手大学図書館が所蔵しています。11月20日(日)には、岩手大学大学院在学時に宮崎文庫の第二次^{しっかい}悉皆調査を行った北上市立博物館専任研究員の高橋和孝氏による講演『岩手大学所蔵「宮崎文庫」について』を開催し、岩手大学の調査の様子や宮崎文庫蔵書の概要について御報告いただきました。当館では、今後も引き続き宮崎家資料の調査を行います。

本展で御協力いただきました皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。



次回企画展
のご案内

市民参加展 「第7回旧暦ひなまつり展」

平成29年3月18日(土)～4月16日(日)

資料は語る④

荷籠付け



柴付け

【荷の付けかた 模型】

当館新館2階の常設展では、馬の背にどのように荷を載せるかを再現した模型を9点展示しています。この模型は市内手代森の方から寄贈いただいた資料で、堆肥や炭、柴、肥やし桶など載せる荷に合わせた固定方法が分かりやすく再現されています。

参考・引用資料：北田武男著『路傍で集めた古里』（2007）

盛岡市所在指定・登録文化財紹介④

国指定天然記念物



龍谷寺のモリオカシダレ 1本

大正9年(1920)、「盛岡桜之会」の要請を受けて国の天然記念物調査員であった東京帝国大学教授の三好^{みよしまなぶ}が来盛し、そのとき盛岡で初めて確認された品種がモリオカシダレです。ソメイヨシノと類似点もありますが、枝の垂れ下がりや花の色などが異なっており、枝垂れ性のエドヒガンとソメイヨシノとの間にできた雑種と推定されます。樹齢は160~180年と推定され、龍谷寺のほか法華寺でもモリオカシダレを見ることができます。

参考用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』（2008）

『砂子姫の奮戦 四』となんの昔はなし四十九

勘四郎が砂子姫に組み伏せられ、今にも首を切られそうになったそのとき、敵の達曾部右内という者が名乗りもせず後ろから姫の首を打ち落としました。その首を刀の先に貫き、「やあ、飯岡の兵ども、これを見よ。只今まで鬼神のごとく働いていた砂子姫を、達曾部右内が討ち取ったぞ」と、声高に名乗り陣へと引きあげました。右内は、砂子姫の首を見て、本当に美しい顔をしており、顔に似合わぬ武功のある女だと感じました。斯波の兵もみな、この女武者に驚いていました。

飯岡庄太郎は、娘の最期を聞くと大いに怒り、岩倉ら四人の家臣へ斯波軍を討ち取るよう命じました。かれらは馬の鼻を揃えて乗り出し、大音をあげ敵陣へ向かい、東西南北を駆け回り六十三騎を切り伏せ城へ引きあげました。斯波軍は、飯岡の兵を恐れて散り散りに逃げてしまいました。

飯岡庄太郎は兵を集め、「我々は城を焼き落とされ、千騎万騎にも勝る姫を失い、長期戦となれば日増しに味方は減り、敵は勢いを増す。今夜、太田勘蔵の館へ落ちのびよう」といいました。その夜、少しの兵を残し、飯岡庄太郎らは太田勘蔵の館へと逃れました。

翌朝、斯波軍は多勢で飯岡の館へ押し入り、飯岡軍が館を捨てたことを確認しました。元龜三年(一五七二)四月二十九日のことと伝わっています。(終)

出典：『となんの民話』（都南歴史民俗資料館、一九八八）